

# 高砂香料工業株式会社 2022年3月期 決算説明会

証券コード:4914

2022.5.25

- I. 2022年3月期 通期業績
- II. 2023年3月期 通期業績予想
- III. 中期経営計画New Global Plan-1 【NGP-1】（2022年3月期～2024年3月期）の進捗
- IV. Appendix

# I. 2022年3月期 通期業績

# 2022年3月期通期業績

[単位：億円]

	2021/3 通期業績	2022/3 通期予想 (2021/5/14時点)	2022/3 通期予想 (2021/11/8時点)	2022/3 通期業績	前期比	為替影響除く 前期比
売上高	1,504	1,510	1,650	1,624	+8.0%	+5.2%
売上総利益 売上総利益率	451 30.0%	—	—	511 31.5%	+13.5% +1.5P	— —
販売管理費	388	—	—	423	+9.2%	—
営業利益 営業利益率	63 4.2%	50 3.3%	70 4.2%	88 5.4%	+40.1% +1.2P	+38.2% —
親会社株主に帰属 する当期純利益	72	48	62	89	+24.5%	—

期中平均為替レート

USD :	107円	104円	109円	110円	+3円
EUR :	122円	122円	130円	130円	+8円

# 地域セグメント

[単位：億円]

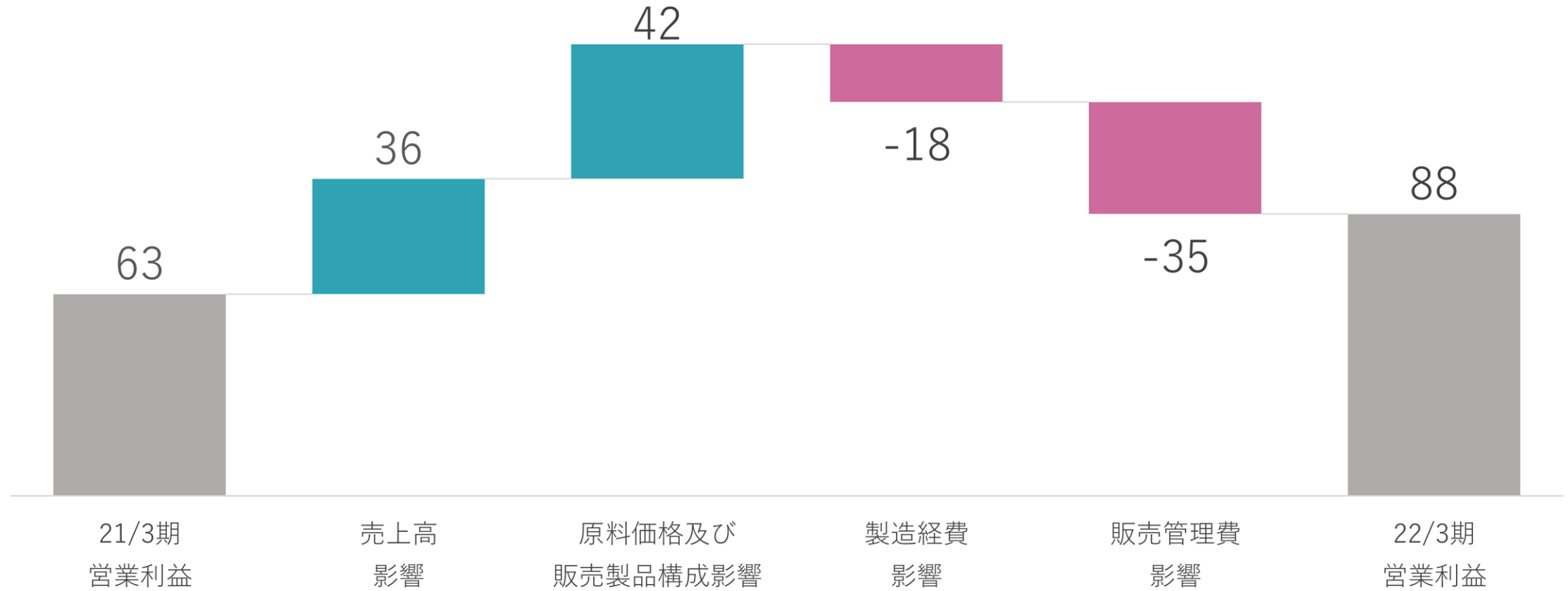
	売上高				営業利益			
	2021/3 通期業績	2022/3 通期業績	前期比	為替影響 除く 前期比	2021/3 通期業績	2022/3 通期業績	前期比	為替影響 除く 前期比
日 本	653	675	+3.5%	—	6	38	+564.2%	—
米 州	351	384	+9.4%	+6.2%	24	24	+0.2%	△2.7%
欧 州	251	282	+12.1%	+4.9%	9	9	△0.9%	△3.1%
ア ジ ア	249	284	+14.0%	+8.3%	22	23	+3.4%	△0.2%
調 整	—	—	—	—	3	△5	—	—
合 計	1,504	1,624	+8.0%	+5.2%	63	88	+40.1%	+38.2%

# 営業利益の増減分析

[単位：億円]

増益

減益



## II. 2023年3月期 通期業績予想

# 為替の前提、感応度

## ● 為替の前提

	2022/3 通期実績	2023/3 通期予想	前期比
U S D	110円	112円	+2円
E U R	130円	130円	0円

## ● 為替感応度 (1円円高/円安のケース)

### ● 売上高に対する影響

- USD = 約5億円減収/増収
- EUR = 約3億円減収/増収

### ● 営業利益に対する影響

- USD = 約20百万円減益/増益
- EUR = 約2百万円減益/増益



# 2023年3月期 通期予想

[単位：億円]

	2022/3 通期業績	2023/3 通期予想	前期比
売上高	1,624	1,725	+6.2%
営業利益 営業利益率	88 5.4%	50 2.9%	△43.3% △2.5P
経常利益	102	55	△45.9%
親会社株主に帰属する 当期純利益	89	51	△42.8%

期中平均為替レート

USD :	110円	112円	+2円
EUR :	130円	130円	0円

# 地域セグメント

[単位：億円]

	売上高			営業利益		
	2022/3 通期業績	2023/3 通期予想	前期比	2022/3 通期業績	2023/3 通期予想	前期比
日 本	675	723	+7.1%	38	20	△46.7%
米 州	384	397	+3.5%	24	8	△66.1%
欧 州	282	291	+3.3%	9	3	△64.8%
ア ジ ア	284	314	+10.7%	23	17	△26.4%
調 整	-	-	-	△5	2	-
合 計	1,624	1,725	+6.2%	88	50	△43.3%

# 設備投資・減価償却費・研究開発費

[単位：億円]

	2022/3 実績	2023/3 予想
設 備 投 資	80	83
減 価 償 却 費	69	76
研 究 開 発 費	129	137
売上高研究開発費率	7.9%	7.9%

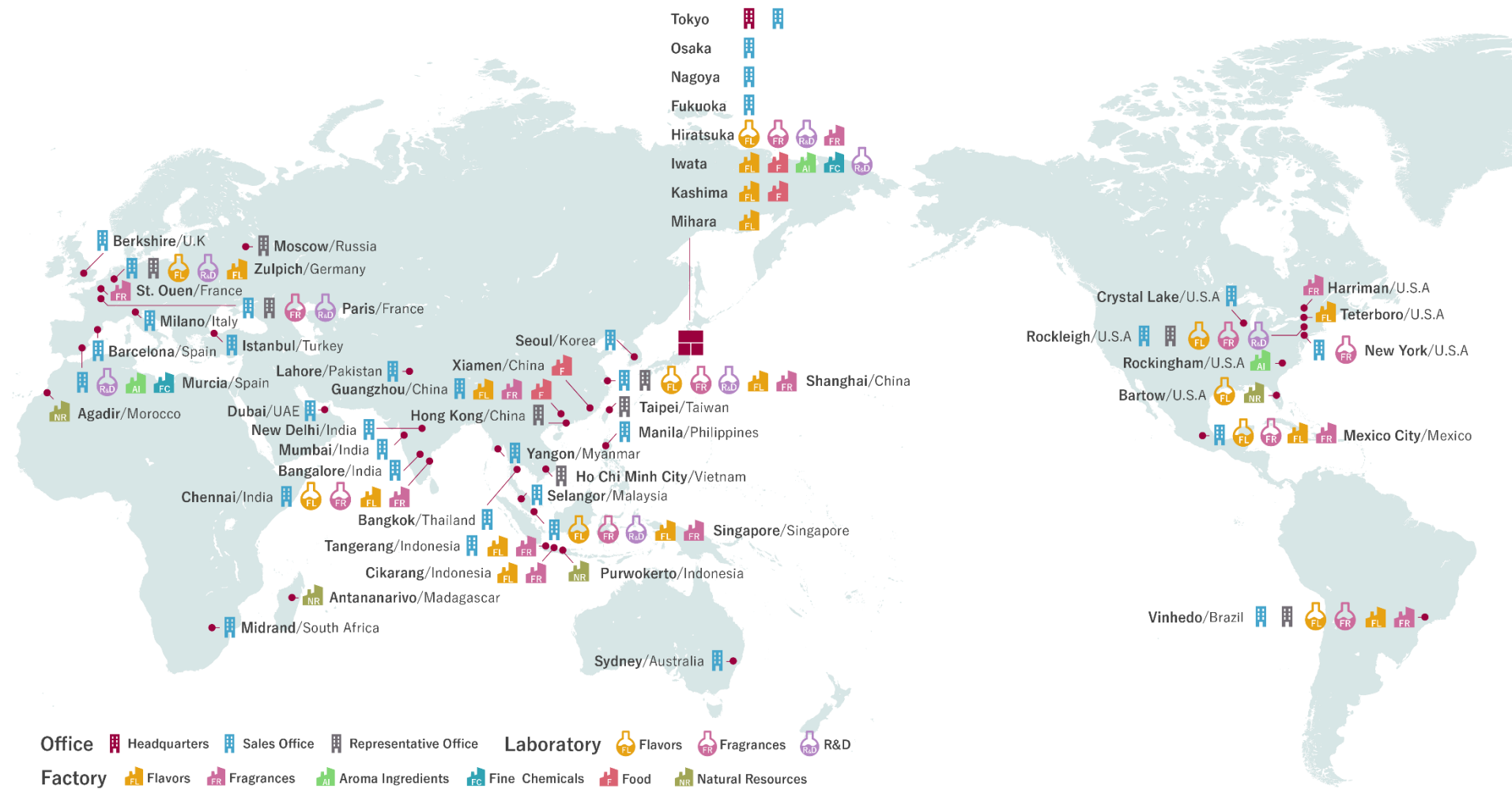
### III. 中期経営計画New Global Plan-1 【NGP-1】 (2022年3月期～2024年3月期) の進捗

# 2022年3月期 当初目標と実績

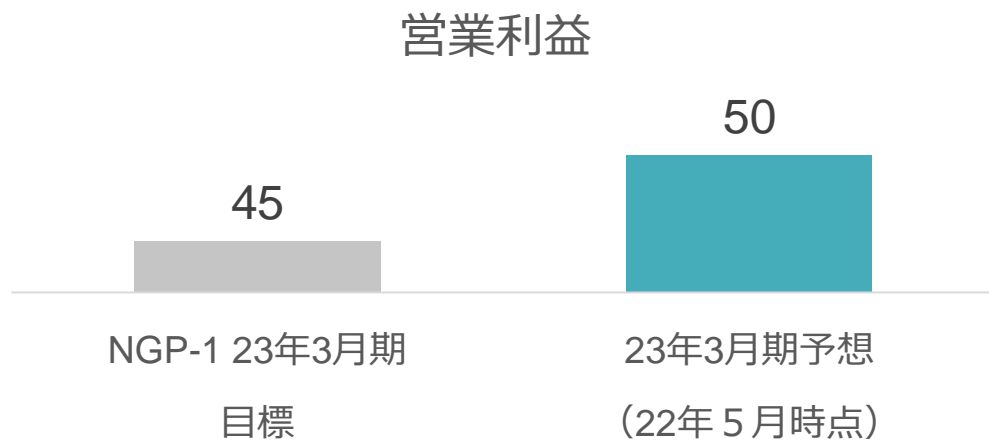
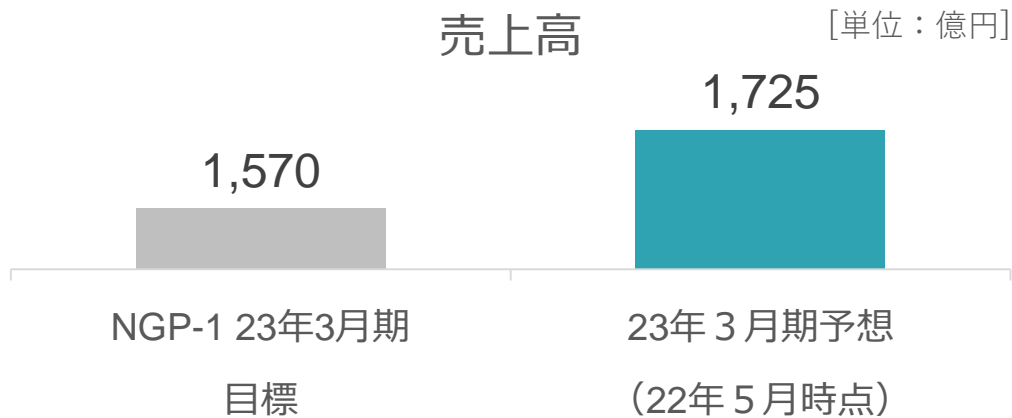


- 当初は、コロナ禍により多くの領域において需要が減少し、売上が伸びないことを想定
- 日本の需要回復が大きく寄与
- フレグランス部門では、米州地域の芳香剤向けは引き続き堅調
- フレーバー部門ではアフリカ、東南アジア地域のセイボリーも成長
- 売上、営業利益、経常利益、親会社株式に帰属する当期純利益、全て過去最高値を達成
- コロナ禍において、世界的に製造人員確保等が困難な中、販売、研究、生産を維持し、供給責任を果たしたことも売上、利益の増大に寄与
- 当社が積み上げてきた多様な技術、きめ細やかな営業体制、BCP体制等の総合力及びそれを発揮するためのグローバルネットワークが、成長の源泉

# グローバルネットワーク



# 2023年3月期 当初目標と予想の対比



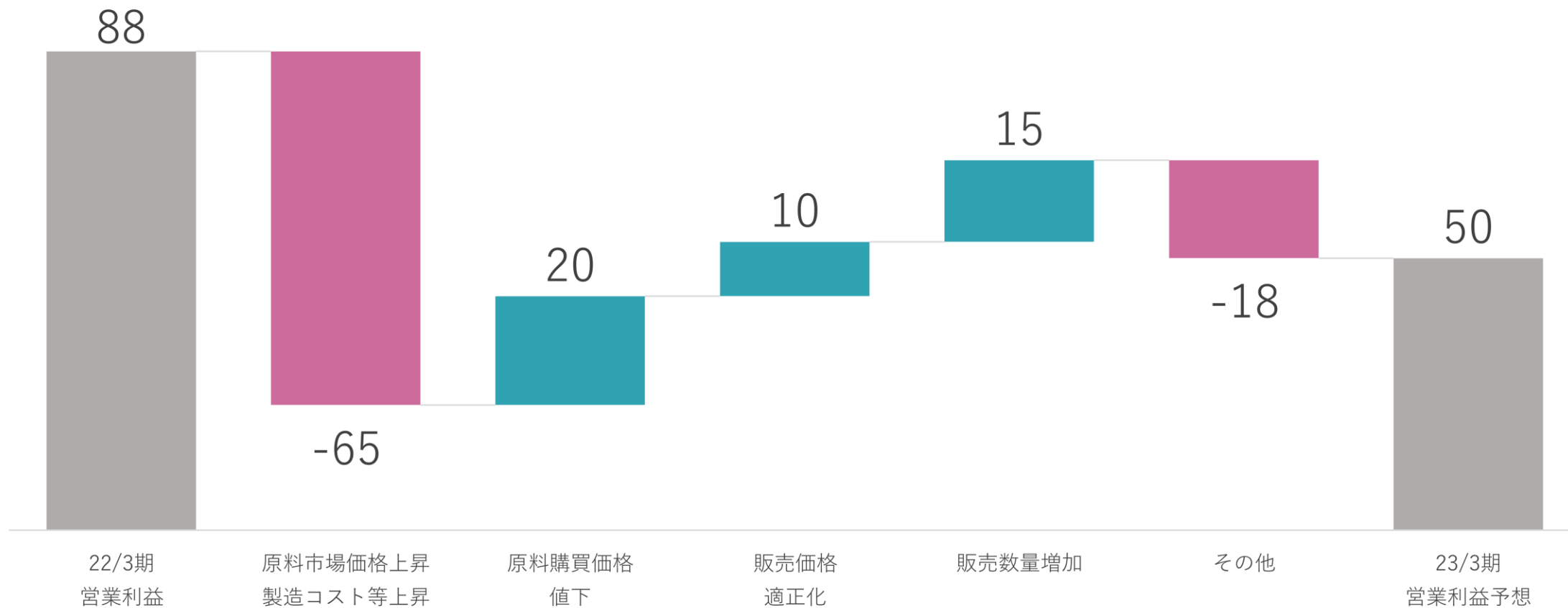
- NGP-1設定当初は、コロナ禍で多くの領域で需要が減少し、需要回復は遅れると想定
- 海外売上高は、引き続き伸長の見込み
- 日本はコロナ禍の影響が和らぎ、更に需要が回復してくると想定
- 世界的なインフレ等により、原料費、燃料費、物流費等が上昇
- 販売価格の適正化、原料購買価格値下げ等の施策を実施

# 2023年3月期 原価上昇影響と対応策効果の予想

[単位：億円]

増益

減益



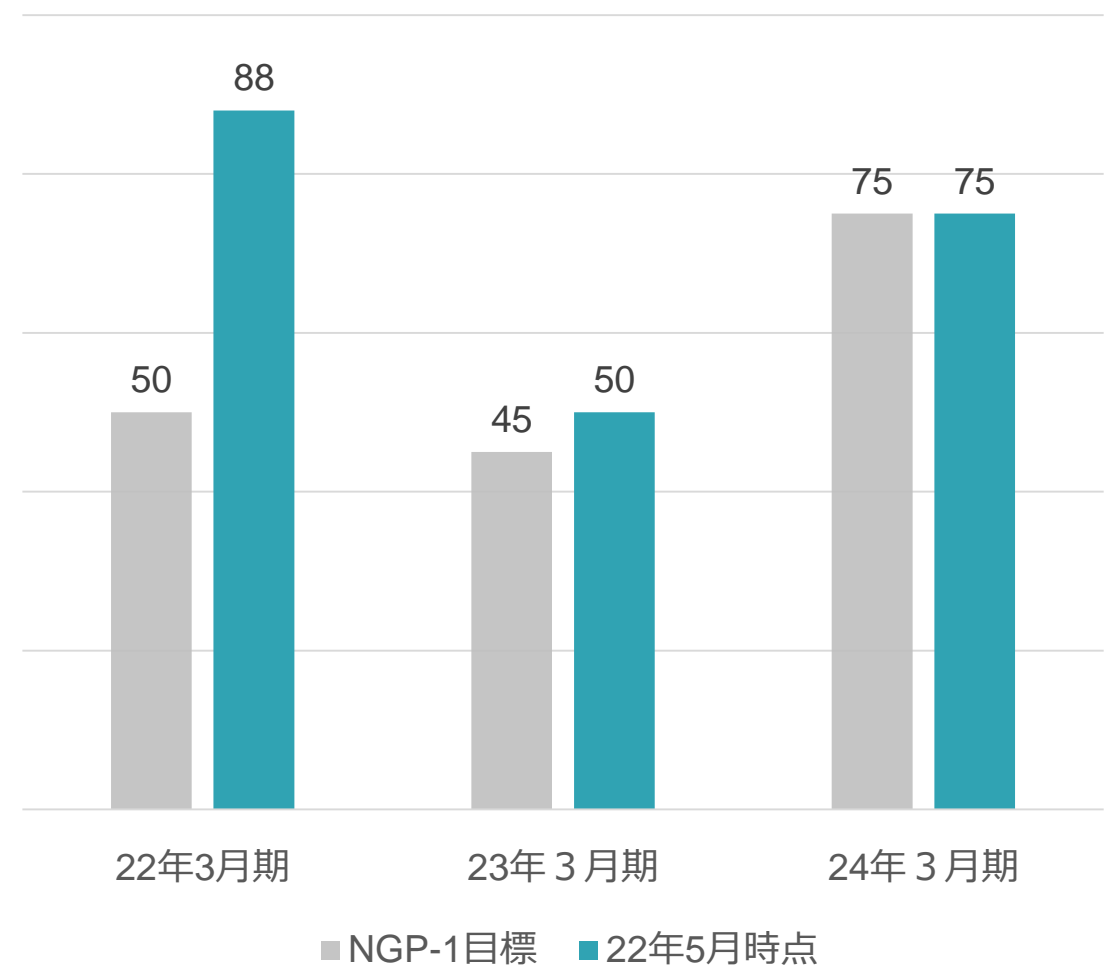
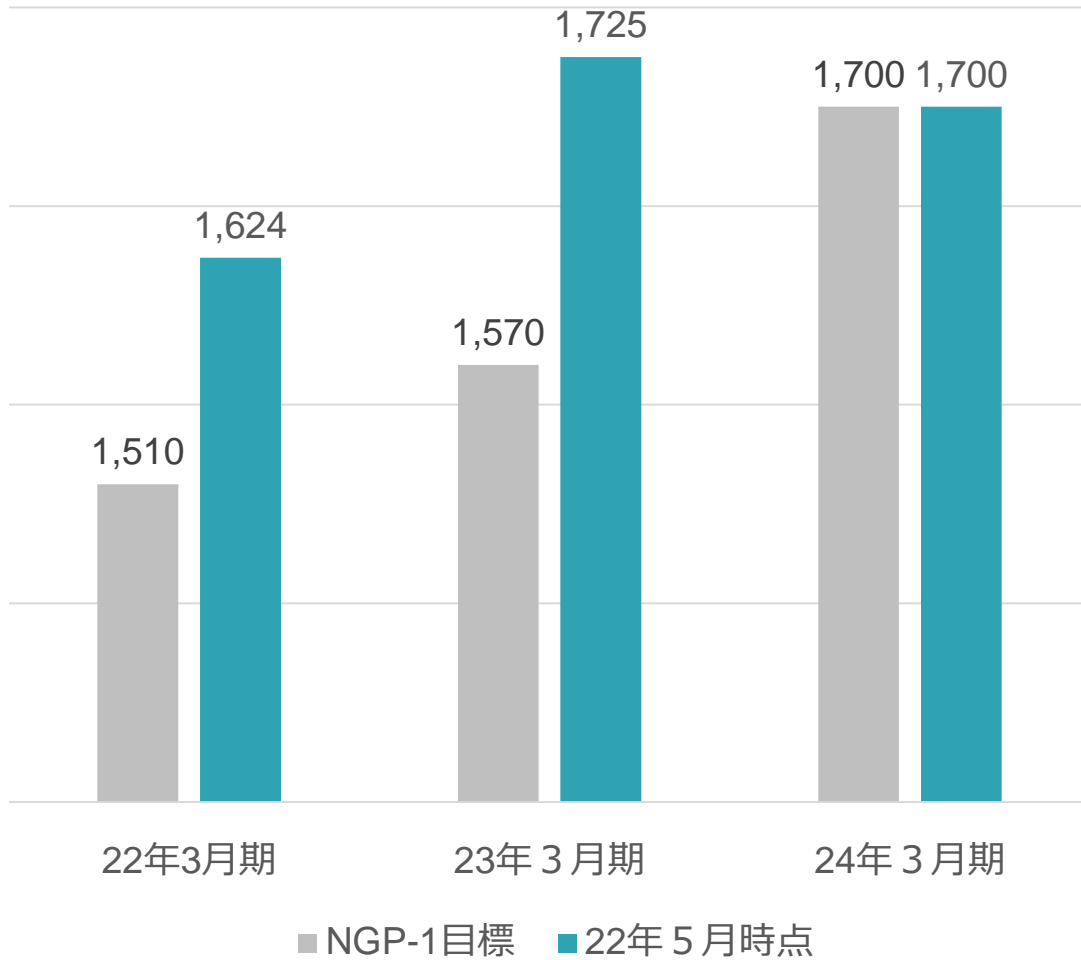


# New Global Plan 【NGP-1】 期間 売上高・営業利益 目標との比較

## 売上高

## 営業利益

[単位：億円]



# 研究所移転のための事業用地売買契約締結



- 移転予定地・面積
  - 神奈川県鎌倉市梶原（35,359㎡）
  - 現在中外製薬株式会社鎌倉研究所
- スケジュール
  - 2022年3月30日土地売買契約締結
  - 2025年後半更地渡し
  - 2028年移転予定
- 背景
  - 研究開発は高砂香料グループ事業の核
  - 消費者嗜好の多様化、健康志向の高まり等を受け、香料の果たす役割が拡大
  - ITの著しい進歩、オープンイノベーションの推進等、研究環境の進化
- 目的
  - 技術の集積・展開をグローバル拠点との間で行うコミュニケーション機能の強化
  - 卓越した人材、設備を揃えた高砂香料グループのCenter of Excellenceを目指す
  - 研究開発領域を拡大し、世界中の顧客ニーズに応える

# 本日は、ありがとうございました。

## ※注意事項

本資料は、2022年5月25日現在の当社グループの事業内容、経営戦略、業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に記載した意見や予測等は資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し又は約束するものではなく、また今後、予告なしに変更されることがあります。

問合せ先：IR/広報室  
TEL: 03-5744-0523 FAX:03-5744-0512  
<https://www.takasago.com/ja>  
E-mail: [ir@takasago.com](mailto:ir@takasago.com)

---

# IV. Appendix

## アジアで初めて米国化学会「歴史的化学論文大賞」を受賞

- 名古屋大学、分子科学研究所および当社が1987年に発表した不斉触媒反応に関する論文及び 京都大学のフロンティア電子理論に関する論文が、2021年米国化学会「歴史的化学論文大賞（Citations for Chemical Breakthrough）」に選出されました。この賞は、18世紀後半以降の自然科学研究における膨大な数の論文の中から、人類の発展に著しく貢献した歴史的な化学論文が選定され、その研究が行われた研究機関を顕彰するもので、米国化学会が2006年に設立したきわめて特色ある賞です。
- これまで、アボガドロの分子説に関する論文（1811年）、パスツールの光学活性体の発見に関する論文（1848年）、メンデレーエフの元素の周期律に関する論文（1869年）、キュリー夫妻の放射性元素発見に関する論文（1898年）、ワトソンとクリックのDNA二重螺旋に関する論文（1953年）など、画期的な約80篇の論文が選出され、歴史を塗り替えた研究の現場として、それぞれの研究機関が顕彰されてきました。同顕彰の中で、アジアの研究機関が受賞対象となるのは今回が初めてのことです。

## ESG投資指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」の構成銘柄に選定



### **FTSE Blossom Japan Sector Relative Index**

- FTSE Russell (FTSE International Limited と Frank Russell Companyの登録商標)はここに高砂香料工業株式会社が第三者調査の結果、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index組み入れの要件を満たし、本インデックスの構成銘柄となったことを証します。
- FTSE Blossom Japan Sector Relative Indexはサステナブル投資のファンドや他の金融商品の作成・評価に広く利用されます。

<https://www.ftserussell.com/products/indices/blossom-japan>

## 創業精神

技術立脚の精神に則り社会に貢献する

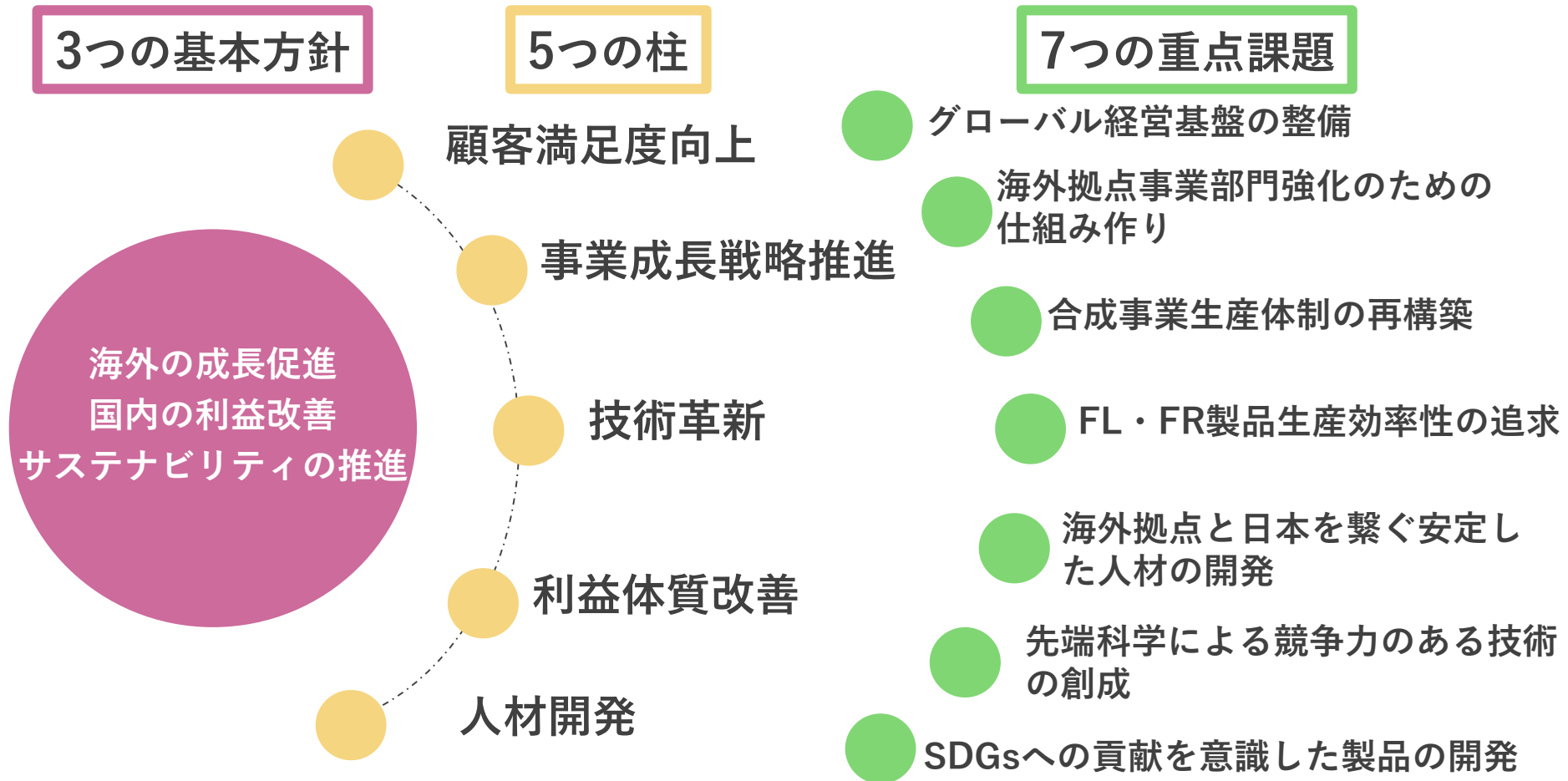
## 企業理念

香りを原点とする革新的な技術を通して、  
新しい価値を創造し続ける

## Vision 2040

人にやさしく、環境にやさしく

1. 多様な価値観を尊重する
2. 自然と共生し、人々の生活に彩りを与える
3. 夢と誇りを持って未知の世界へ挑戦する
4. 常に高い技術を追求する、かけがえのない会社





# 各事業の特徴

	フレーバー	フレグランス	アロマ イングredients	ファイン ケミカル
製品用途	飲料、製菓、スープ、デザート等食品全般	衣料用洗剤・柔軟剤、化粧品、芳香剤等	香料の原料 (フレーバー、フレグランス)	医薬品中間体、機能性材料、触媒、農薬中間体
主要顧客	食品メーカー	日用品メーカー 化粧品メーカー	同業他社、自社使用	医薬品メーカー 電機電子メーカー
競合先	香料会社(同業)等	香料会社(同業)等	香料・化学メーカー、天然品市場(メントール)	化学メーカー等

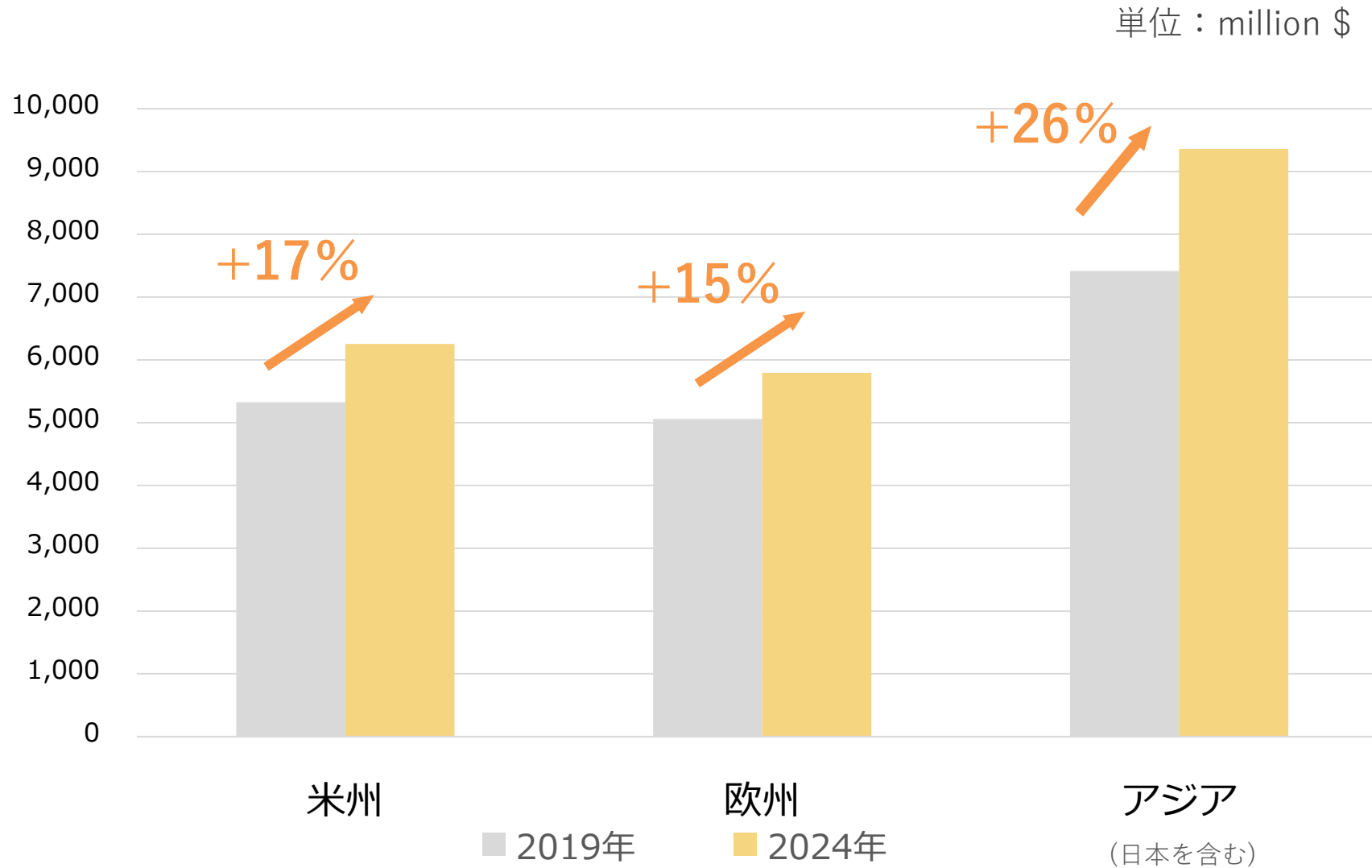
## 【参考】事業セグメント情報

[単位：億円]

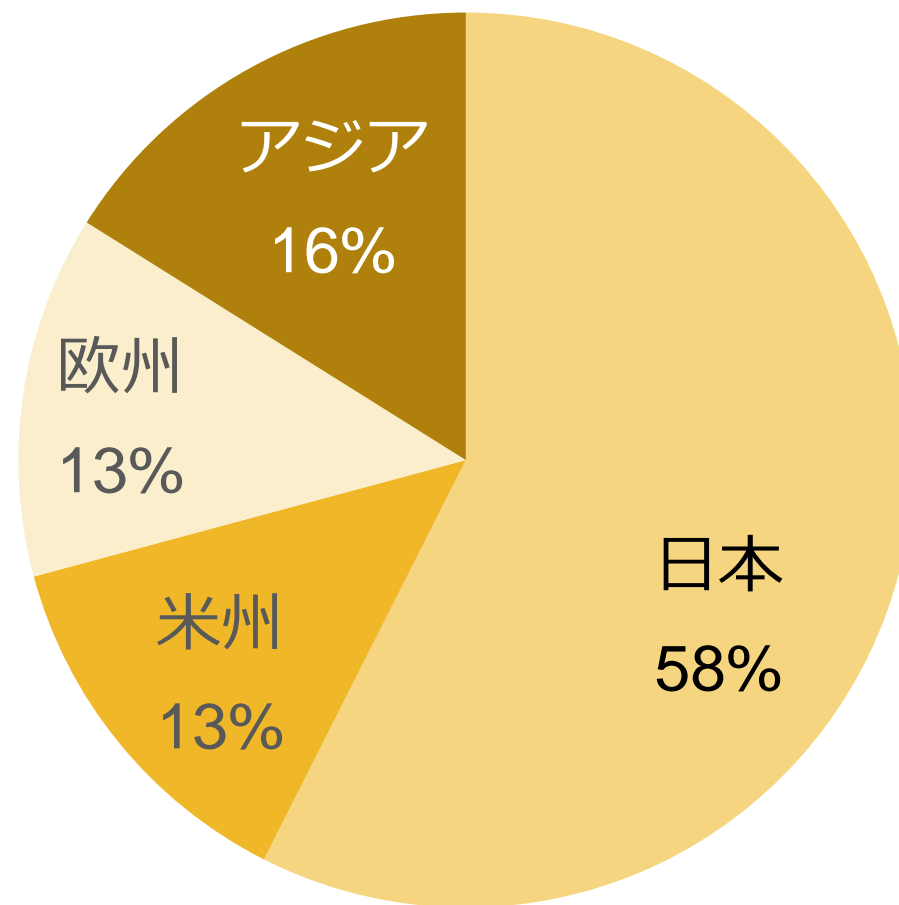
	売上高			営業利益		
	2021/3 通期業績	2022/3 通期業績	前期比	2021/3 通期業績	2022/3 通期業績	前期比
フレーバー	889	943	+6.0%	20	35	+73.3%
フレグランス	434	485	+11.6%	19	18	△6.2%
アロマイング リディエーツ	104	114	+9.7%	7	15	+106.0%
ファイン ケミカル	62	69	+10.9%	3	7	+139.6%
その他	14	14	+0.1%	13	13	△2.2%
合計	1,504	1,624	+8.0%	63	88	+40.1%

一定のルールに基づいた社内資料を基に作成。今後数値の精緻化を推進。

# フレーバー事業 地域別市場成長予想



民間調査会社の調査結果に基づく当社推計



※2022年3月期

## 目標

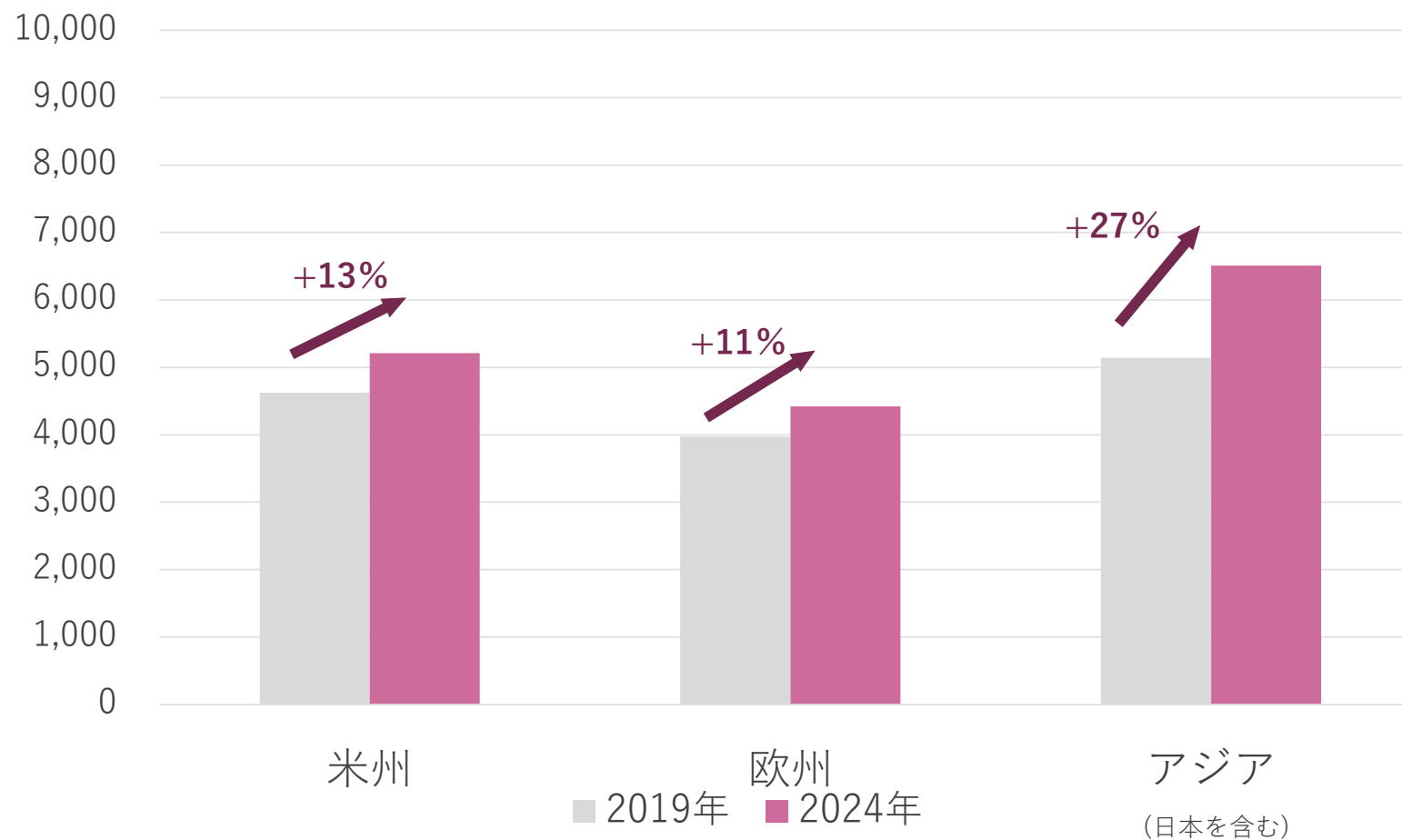
- アジア・フォーカス
- フレーバーを超えたフレーバー ”Beyond Flavor”の開発
- 天然素材ポートフォリオ拡充

## 施策

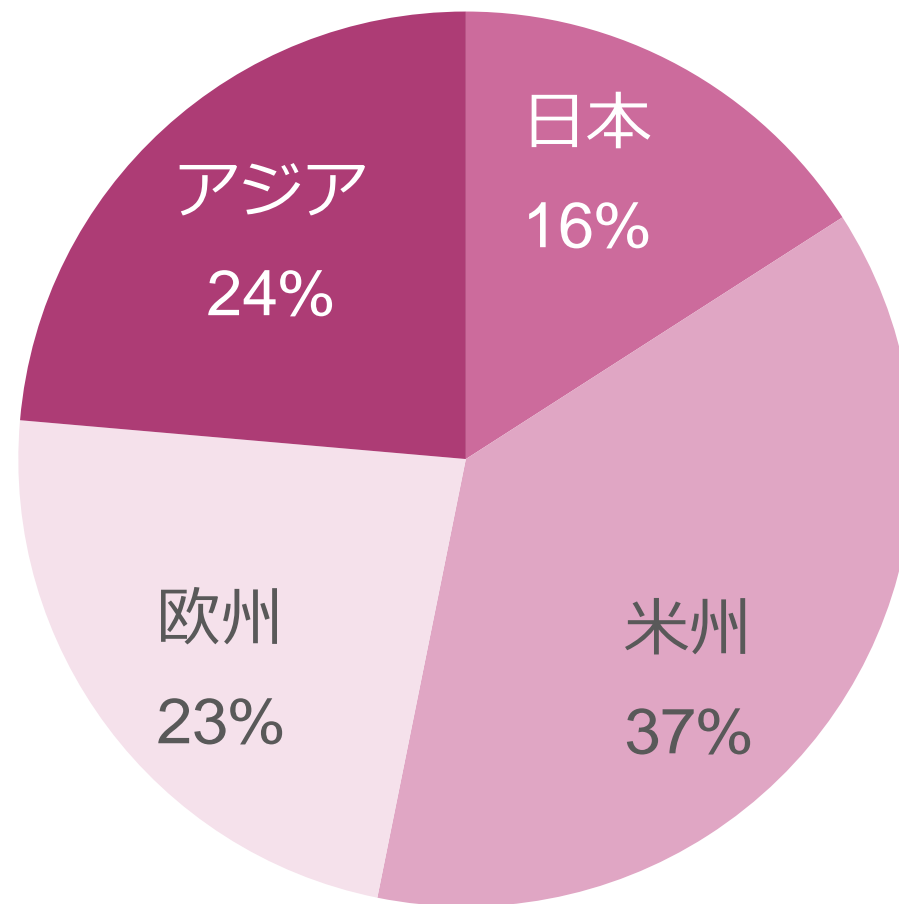
- フォーカスする地域、フォーカスする顧客でのプロジェクト獲得のため、リソースの集中
- 健康志向の高まる市場に対応し、減塩、減糖、代替肉製品を”KOKU”やマスキング等の技術を活かしたソリューションの提供
- 天然素材製造のための既存設備の増強及び新規設備投資の実施

# フレグランス事業 地域別市場成長予想

単位：million \$



民間調査会社の調査結果に基づく当社推計



※2022年3月期

## 目標

- 事業成長戦略推進（製品・顧客・地域）
- 利益体質改善
- 香りの付加価値を高める技術の活用

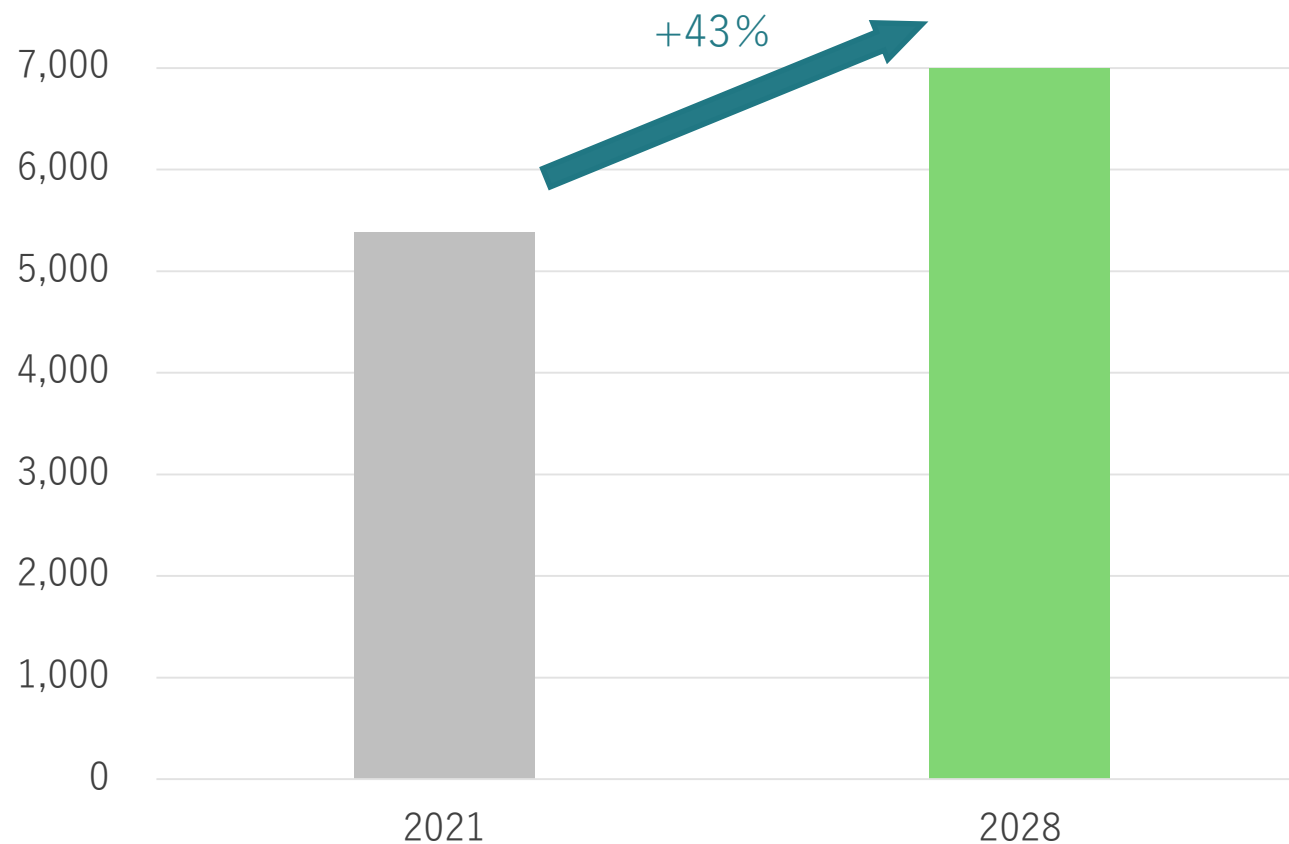
## 施策

- ターゲットカテゴリー、エアケア、パーソナルケア、ファブリックケア及びマルチナショナル・主要ローカル顧客へのリソースの集中
- 販売価格の適正化及びコスト削減施策による利益体質改善
- Well-being(心身の健康)・Hygiene(衛生)に繋がる香り周辺技術や、サステナビリティ・SDGs等に配慮した高付加価値香料開発による競争力強化

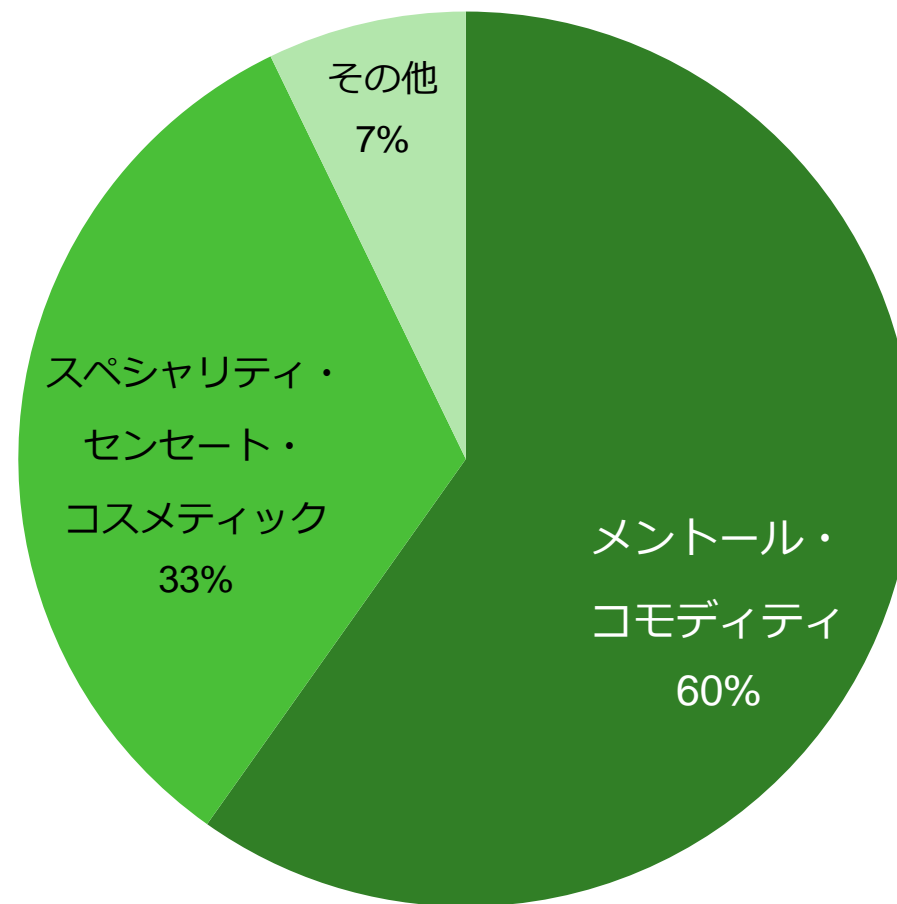


# アロマイングリディエーツ事業 市場成長予想

単位：million \$



民間調査会社の調査結果に基づく当社推計



※2022年3月期

## 目標

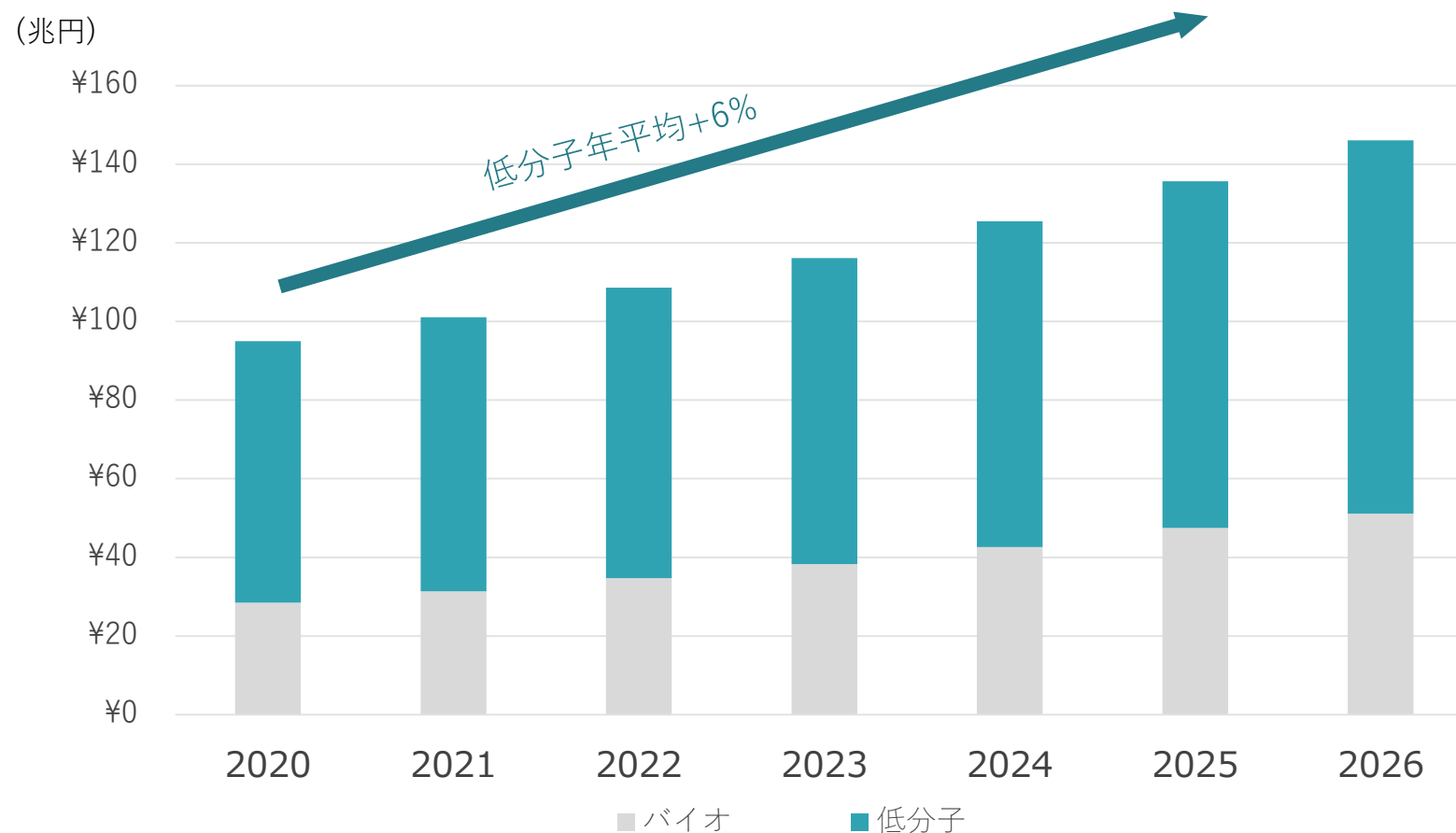
- サステナブル、循環社会への対応強化
- スペシャリティーによる製品ポートフォリオの拡充

## 施策

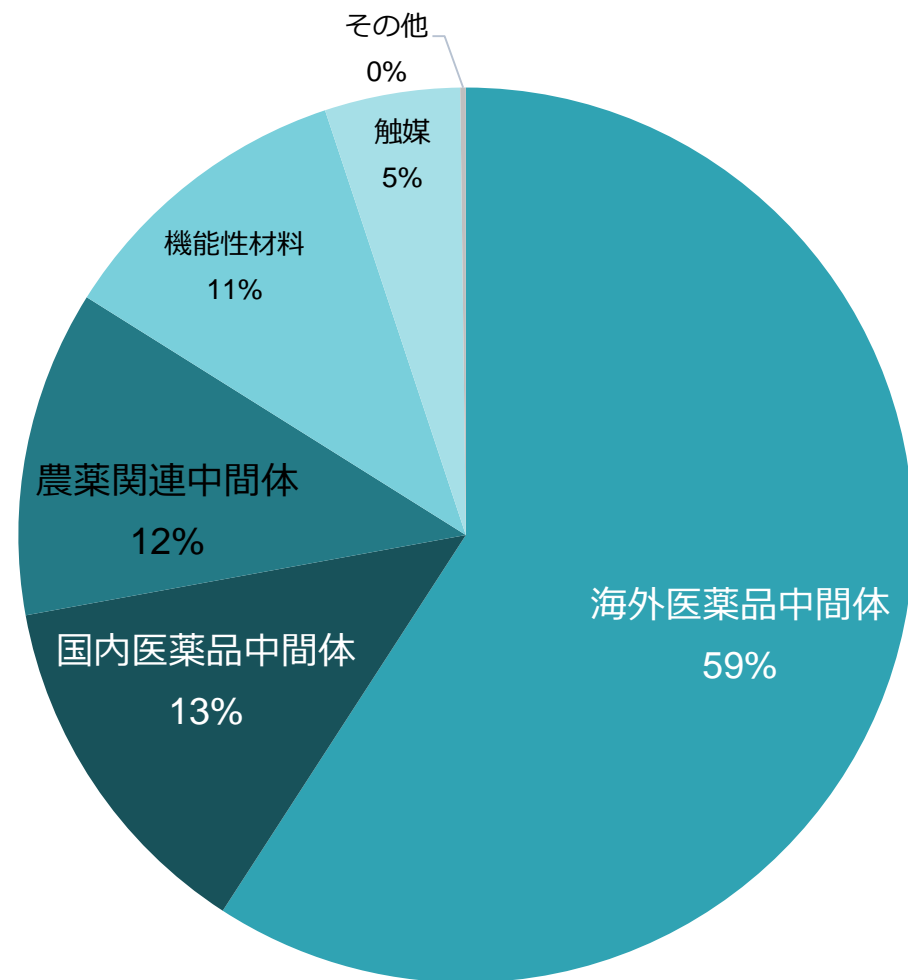
- 化石原料由来の既存AI品目のBIOSWITCH®（プロセスや原料変更による再生可能なAIへ変換）やバイオ技術による天然由来AI品の開発
- 生分解性を有する再生可能AI品の開発
- 害虫忌避剤等の新規市場への展開

# ファインケミカル事業 医薬品市場成長予想

- 低分子医薬品市場は今後も伸長予想
- 当社の売上に関しては、医薬品中間体ビジネス中心を継続



民間調査会社の調査結果に基づく当社推計



※2022年3月期

## 目標

- ポートフォリオ（顧客、製品、技術）の拡充
- サプライチェーンの強化

## 施策

- ビジネス強化のための製造キャパシティ増強及び触媒製造体制の効率化
- 連続フロー技術の深化及び触媒技術との融合による合成技術の差別化
- 国内外部パートナーとの連携による原料調達、中間体の製造委託

## 目標

- 先端科学による競争力のある技術の創成
- SDGsへの貢献を意識した製品開発

## 施策

- オープンイノベーション推進による最新技術の確立・活用
- 生理心理・官能評価技術、計算科学・人工知能等を活用した独自性の高い情報資産創出の加速
- 環境負荷軽減、エネルギー効率に配慮したプロセス開発
- 再生可能資源や未利用資源を利用した素材・製品開発